

(7) 冬山・雪山シリーズ 第6回 巻機山 (会山行)

(報告) M山

◎山行期日：2019年5月19日(日)

◎メンバー：F澤(L)、F野(幹事)、I上、M山

きらめく5月の陽光のなか巻機山に行って来ました。麓でも時折うなり声をあげていた風は、稜線上は烈風となり、山頂ではさらに条件が厳しいことが予想されたため、登山は6合目で断念しましたが、今回の越後行きは以下の通り山登り以外にも盛り沢山、楽しいメンバーと充実の週末となりました。

巻機山行

越後の山といえば、荒沢君や八海山をはじめとする岩肌鋭い峰が印象に残っているのですが、遠くから望む巻機は対照的におっとり優美な姿を見せます。さすがは上越国境の豪雪地帯の山だけあって、時折ショウジョウバカマが彩りを添える土の登山道から一転、4.5合目から上のまばゆい光が射す新緑のブナ林には雪がまだたっぷりと残っており、根元の根開き(根周り穴)の底が見えない程でした。6合目までは斜度も緩やかで、チェーンアイゼンとストックで快適に歩けます。姫川の駐車場(トイレ有り)は駐車料金500円、50台以上は駐車できそうです。5合目まで上がると黒々としたヌクビ沢の岩肌が、また6合目付近で樹林帯を抜けると、上越国境の山々を始めとする大眺望が開けます。しかし風は強く、多くの若い登山パーティも次々と撤退する様子、登頂者によれば山頂は「爆風」だったそうです。

下りは尻セード用「ヒップソリ」で下降を試みましたが、ツリーランをこなそうにもコントロールが意外に難しく腹筋を酷使うことになりました。



南魚沼の田んぼと巻機山



根元が大きく曲がったブナの木は豪雪地の証



標高約 1500m で強風のため撤退



コントロールが効かないヒップソリ



ヌクビ澤。バットレスが見えます。



ブナの根本の「根開き」

縄文

新潟県十日町市や長岡市は、「火焰型土器」が多く出土した場所として名高く、十日町市博物館や長岡市の新潟県立歴史博物館には、縄文土器の豊富なコレクションと工夫の凝らされた縄文の暮らしの再現展示で全国的に知られています。今回、初日は山麓の清水集落までの移動のみでしたので、十日町市の「なじょもん」という農と縄文の体験実習施設に立ち寄りました。何と云ってもここでは、火焰型を含む縄文中期(紀元前 3,000-2,000 年)の土器の実物に触れるという貴重な体験ができます(無料)。手にとってみると意外に軽い、目の粗い肉厚な土器はいかにも脆そうですが、その造形の力は圧倒的です。



こんなかわいい土偶も



本物の縄文土器を持たせてもらえます

清水集落の民宿

清水は古くから越後と江戸を結ぶ街道筋の集落として栄えたところで、現在も立派な普請の民宿が立ち並んでいます。今回の宿「やまご」もそのような宿の一軒で、我々を行き届いたおもてなしで迎えてくださいました。採れたての山菜他をふんだんに使ったお料理のほか、鹿汁も美味しくいただきました。早立ちの我々のために準備いただいた特大おにぎり2個は無論南魚沼産コシヒカリ製、塩鮭、トマト、お漬物も美味この上なしでした。

越後の味覚といえば

お土産には、お米と現地仕様で魚沼地区でしか購入できないという八海山「魚沼で候」。美酒は、前夜祭もおおいに盛り上げてくれました。

温泉

今回は下山後に金城の里で入浴。これは、隣接するごみ処理施設の廃熱を利用する天然温泉施設で、清潔で設備も整った温泉施設を320円で利用させてくれます。

《コースタイム》

5:30 駐車場発 - 6:05 4合目 ・ 7:30 尾根（又クビ沢展望） - 8:15 折り返し点 ・
8:35 下山開始 - 11:40 駐車場帰着